

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	おおさかふりつみくにがおかこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
26～30	①学校名	大阪府立三国丘高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科521名 文理学科477名 計998名 普 1年201名、2年159名、3年161名 文理 1年160名、2年159名、3年158名	
普通科	180	70	30		280		
文理学科							
⑥研究開発構想名	「持続可能な地域開発に貢献できるリーダー育成プログラム」						
⑦研究開発の概要	TOPIC STUDY レベル1では最新の知見を獲得し、TOPIC STUDY レベル2では、「持続可能な地域開発」を統一テーマに3つの課題研究において action plan を作成、提言する。フィールドワークを行い、多様性を理解し、高いメンタリティを持って問題解決策を遂行する、グローバル・リーダーとしての資質を身につける。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>&lt;目的&gt; 地球規模での持続可能な社会の構築に貢献する、「創造的課題解決能力」を持つグローバル・リーダーの育成</p> <p>&lt;目標&gt; 本構想において実現する成果目標（アウトカム）とグローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）を設定する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>&lt;現状分析&gt; 学校設定科目「Creative Solutions I II」や「CS 探究」では、アジアの国々を中心とした国際問題等をテーマとし課題研究を行っているが、適切な専門家等のアドバイスを受けて深化させるにはいたっていない。また、教室内での研究であり、実態の把握が難しく不完全な現状分析に終わっている。</p> <p>&lt;仮説&gt; 以下の仮説が充足されれば「創造的課題解決能力」を持つグローバル人材を育成できるという仮説を設定する。</p> <p>①国際社会が直面している緊急の課題をテーマとして設定することで、世界に貢献する有益な action plan を作成することができる。</p> <p>②専門性を持つ大学教員等による指導によって、信頼できる情報をもとに比較分析を行い有益な action plan を作成することができる。</p> <p>③しかるべき組織・学校と連携できる専門家のもとで国内外のフィールドワークを行うことにより、グローバルな視点から見ても有益な action plan を作成することができる。</p> <p>(3) 成果の普及（平成27年度）</p> <p>①課題研究発表 米国ポートランド市およびメリルハースト大学での課題研究発表、フィリピンでの学校交流先や NPO での課題研究発表、京都大学での課題研究発表、関西学院大学 research fair への参加、本校における学校交流での課題研究発表、その他各種課題研究発表会における課題研究発表</p> <p>②SGU との接続の推進</p> <p>③action plan 提言のための、国際機関・各国政府機関との連携の推進</p> <p>④HP（日本語版・英語版）の更なる充実</p> <p>⑤教材ライブラリー、SGH 紹介ビデオの作成</p> <p>⑥授業公開 課題研究授業を SGH 指定校を中心とした全国の高校に公開する。</p>					

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容  <b>TOPIC STUDY レベル 1</b>  A. 人材育成研究分野&lt;1&gt;「インターネットの利用で世界規模で変革する教育の可能性（日本の過疎地及び新興国を対象とする）」  &lt;2&gt;「Sustainable Business and Leadership」メルハースト大学  B. 最新ビジネスモデル研究分野  「IMEC 型ビジネスモデルを学ぶ～NPO の新しい形はなぜ成功したのか～（地域開発）」  C. 国際支援研究分野  「東南アジアにおける国連開発計画（UNDP）、アジア開発銀行（ADB）の支援を学ぶ」  <b>TOPIC STUDY レベル 2</b>  A. 「BOP ビジネスを用いた地域開発」  B. 「人間活動と自然環境の調和ある地域開発（企業と地域社会が共存できる持続的な環境・地域開発）」  C. 「Sustainable Business and the Environment」  (2) 実施方法・検証評価  &lt;実施方法&gt;  本校の SGH の取り組みは、SGH core program と SGH open program に分けて実施する。  ①【SGH core program】  すべてのカリキュラムを講義、討議、グループワーク、課題研究、課題研究発表等の活動を通して実施する。  学校設定科目「Creative Solutions I II」（文理学科・普通科選択生徒対象）や「CS 探究」（文理学科文科（人文社会国際系）2 年生対象）の授業または大学において実施。春季休業中に米国ポートランド市でフィールドワークを実施。  ②【SGH open program】  カリキュラムの一部を希望者等対象に実施。  SGH 三丘セミナー、SGH 特別講義、メルルハースト大学 open program、学校設定科目「国際情報」の時間に実施。  &lt;検証評価&gt;  国内外での課題研究発表におけるアンケート等を利用した本校関係者・本校関係者以外の評価、学校交流先等の連携先へのアンケート、生徒・保護者・教員へのアンケート、パフォーマンス評価、SGH 運営指導委員会・学校協議会による指導・助言  (3) 必要となる教育課程の特例等  なし</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 なし  (2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし  (3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法  ①グローバル・ツアー  Australia Study Tour（夏期休業中 15 日間）、Culture and Sports Tour（春期休業中 10 日間）  ②中台韓を中心とした学校交流の受入れ  ③海外進学講座  ④Super English Teacher 制度による TOEFL コース（平成 27 年度より実施予定）  (4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし</p>
<p style="text-align: center;">⑨ そ の 他 特 記 事 項</p>	